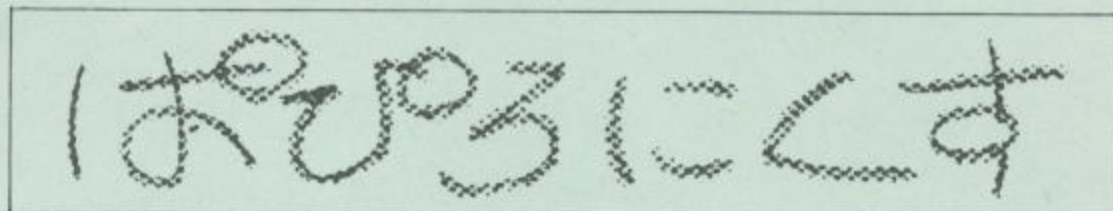


第 9 号



パピルス & エレクトロニクス



大阪工業大学中央図書館

〒535 大阪市旭区大宮5-16-1

☎ 06-952-3131

『小さい秋みつけた』

秋です。「この季節、我家は、冷房がいつのまにか暖房に切り変わります。この切り変わりの暑くもなく、寒くもない、この時期が一番好きです。しかし、残念なことにアッという間に過ぎ去ってしまう程、この季節は短いのです」…などと想いながら秋の夜更けを過ごしてみるのはいかがなものか。

大学生活1年目があり、2年目がある。なんとなく、学生生活が永遠に続きそうな気がしていると、卒業研究に追われる毎日がやってきて、それが終わってホッと一息とおもったら、もう卒業式。気がついてみると群れをなして歩いていた仲間たちにも別れがやってきて、就職先の決まった人も決まらなかった人も、それぞれに大学を去っていく。試験から解放されて、「今の気分は？」と聞かれ、「最高！」と答えられればいいのですが、社会はそんなに甘いもんじゃない。試験の代りに君たちをむかえてくれる現実とはどのようなものか。慣れてしまえば大学より居心地がよいとうそぶける人は少ないでしょう。甘くない社会を生きて行くとき、自分自身を支えてくれるのは、やっぱり自分自身でしかない。そ

のことに気付いて、内なる自分にセッセと力をたくわえておくのが在学中であり、その蓄積は生涯あなたの恩師や友人となるでしょう。できるだけ多くの友人を持ち、いろんなことをやってみて、いろんなところへ出かけてみて、過ごした4年間なりが「良かった」と思えたとき、社会に出てからの失敗や壁に立ち向えるだけの力量が身につけられるのでしょう。

秋の一日、テレビを見るもよし。マンガを読むもよし。誰も文句は言いません。勝手なのです。ただ、「勝手」で済まない時が来るはずだから、そのときのための準備をしておいたほうがいいですよ、ということなのです。今からでは「もう遅い」と考える人もいるでしょう。たしかに遅いかもしれません。しかし、それはあなたがどう考えるかです。ですから考え方によっては決して遅くはないといえるのです。卒業してからでも、結婚してからでも、30歳が40歳になってからでも遅くはありません。ただ、気がつくのはできるだけ早いほうがよいのです。君たちの先輩の多くはきっとそう思っているはずです。生涯教育が叫ばれて久しいのですが、一生涯、学ぶことは

たくさんあります。学ぶ姿勢が大事なのです。書物からばかり学ぶとは限りません。学ぶ機会はいろんな所にころがっています。少なくとも学ぶ姿勢と学び方を身につけておくことが大切でしょう。

図書館には君たちの専門分野の図書以外に生きていく上でのすべての分野の図書を所蔵しています。本学図書館は工科系単科大学という性格のため「自然科学」や「工学」の分野が大部分を占めていますが、その他の分野についても新刊図書を購入しています。

図書は分類順に並んでいます。あなたが求める分野は次の表を参考にしてください。また、開放端末機での所蔵検索も利用してみてください。さあ、この秋、図書館であなたの人生をみつけてください。

日本十進分類法

- 0 総記 (新聞、ジャーナリズム…)
- 1 哲学 (哲学、心理学、宗教…)
- 2 歴史 (歴史、伝記、地理、紀行…)
- 3 社会科学 (政治、法律、経済、経営、統計、社会、教育、民族、軍事…)
- 4 自然科学 (数学、化学、天文学、医学…)
- 5 工学 (土木、建築、機械、電気、家事…)
- 6 産業 (農林業、水産業、商業、交通…)
- 7 芸術 (美術、音楽、演劇、体育、諸芸、娯楽…)
- 8 語学
- 9 文学

図書紹介(第1図書室から)

3版 人間・その総合的理解

岡田精司・高山龍三 編著

1985.3 3版発行 八千代出版

「はしがき」より抜粋

本書は、大学とくに工学系大学教育を受けようとする人たちに向けて、「人間とは何か」「日本人とは何か」ということを考えて載くために、新たに書きおろされたものである。

「目次」は次のようになっている。

- I 大学でいかに自分をつくるか
- II 文化をもつ生物
- III 「いのち」としての人間
- IV 青年への道
- V ことばとところ
- VI 異文化理解事始め
- VII 日本人の国民性
- VIII 日本人の伝統的思考の原点



「執筆者・専攻一覧(執筆順)」

大阪工業大学 一般教育科

加藤淳夫(かとう あつお)美学・美術史

高山龍三(たかやま りゅうぞう)文化人類学

吉村文男(よしむら ふみお)教育哲学・倫理学

二橋茂樹(ふたつばし しげき)心理学

池田敬子(いけだ けいこ)国語学・国文学

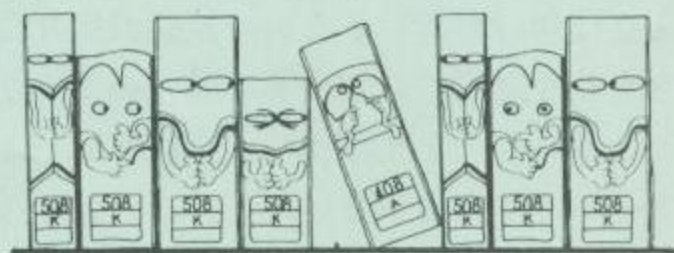
故直塚玲子(なおつか れいこ)コミュニケーション論

山下 勲(やました いさお)哲学

岡田精司(おかだ せいし)日本宗教史

☆配架場所: 第1図書室 分類番号: 370.4 O

〈図書館からのおねがい〉



わたしたちを迷子にしないでください。

シリーズ『淀川ぶらり散策』〈第3話 長柄の人柱〉

淀の川面に映る夕陽が美しい。暮れなずむ陽は、紅くゆらゆらと波間に漂いながら次第に夕闇の中につつまれてゆく。あたり一面は、秋のもの憂い哀しさの中にある。

堀田善衛はその著「橋上幻像」の中で、「夕暮れのY字橋の中間点、結節点に立つと、あたりは茫とかすんだようになり、幻想の世界が生まれる」というようなことを書いている。確かに、橋上から見る夜の川面は、暗く悲しい雰囲気をも漂よわせ、過ぎし日のことを私達に語りかけてくるような気がする。今回は、長柄の人柱伝説を紹介することとしよう。

天神橋筋を経て東淀川区と大淀区を結ぶ現在の長柄橋は、淀川の大規模な改修工事の一環としてそれまでの昭和11年に架設され、長らく大阪の人々の親しまれてきた橋が架換えられ、昭和58年に中央部に軽快なアーチ型の橋をもつ橋として完成した。

昔の長柄橋については、一つの橋であったのか、島から島へと次々にいくつもの橋が架けられていたのか、はっきりしないが長柄という名のごとく長大のものであったと言われている。この橋は、九世紀初頭に築造され、約40年後の仁寿3年(西歴853年)には洪水のため橋は廃絶し、橋杭だけが残っていたとされる。橋杭の朽ち果てた姿に、わが身の没落を象徴的に見た貴族達が競って歌を泳んだ「幻の名橋」として難波の名物とされてきた。一方長柄橋には、そのような貴族達に世の「諸行無常」を抱かせた話とは別に、淀川の治水と灌漑のため厳しい苦しい闘いをしてきた

民衆の間に語りつがれてきた悲話「長柄の人柱伝説」が伝わる。

川は渦を巻いて流れ、長柄の架橋工事は進まない。打ちこんでも打ちこんでも橋杭はおさまらず、橋大工、猪名部工は、困惑しきっていた。水ごりをとり神前にぬかずき一心不乱に祈るうちに、どこからともなく「家の根固めは心で締めろ、杭の動きは人柱。杭の動きは……人柱」と聞えてきた。……そして一夜が明けた。工事が思うように進まないため橋奉行は雉子暇(吹田市)の松の根かたに幔幕を張り、往来の人をとどめて橋杭の締め方を尋ね出そうとしていた。そこに垂水の長者で岩という男がやって来て「継ぎのある袴をはいている人を人柱にすれば橋杭はおさまるだろう」と申し出た。ところが岩氏自身の袴がそのとおりであった。猪名部工は橋奉行に昨夜のことをささやいた。

長柄橋は立派に完成した。

ものを言いすぎて人柱となった岩氏の娘は、長じてある長者の許に嫁いだが物を言わなかった。このため離縁され夫に送られ親里に帰る途中、松林で雉子が鳴いた。夫は矢をつがえその雉子を射落とした。輿の中にいた妻は「物言へば父は長柄の人柱、雉子も鳴かずば射られざらまし」と歌ったという。

東海道線神崎川鉄橋の手前にある大願寺は、人柱となった岩氏のために、猪名部工が建立し、その冥福を祈ったという。

「第3話 長柄の人柱伝説」 完

橋名	所在地	形式	橋長	最大支間	幅員	総鋼量
長柄橋	大阪	アーチ	656	153.0	20.0	5,538

出典:

日本の橋—鉄の橋百年のあゆみ—
日本橋梁建設協会編

図書館活用の手引き ⑧

所蔵検索用開放端末機の増設と印刷装置の新設

1. 所蔵検索用開放端末機の増設

中央図書館では昭和59年4月から蔵書のオンライン検索サービスを実施しています。これは学園図書館に所蔵するすべての図書について、端末機を使い利用者自身の手で検索をするというもので、テストケースとしてまず1台を設置しました。導入後の利用状況は、常に誰かが使っているというほどの盛況ぶりです。アンケート等によっても、端末機増設の

声はやくから聞かれました。

今回増設した端末機の鍵盤(キーボード)は、従来の「JIS配列」と異なり、「五十音配列」となっています。これは鍵盤の配列が「あいうえお……」の規則的な配列になっているため、比較的簡単に文字を探することができるという長所があります。したがって、端末機にふだん触れる機会の少ない利用者にとっては、使いやすいといわれています。

五十音配列鍵盤図

	ろ	ね	る	り	ら	や	ゆ	よ	あ	い	う	え	お	
	も	め	む	み	ま	を	ん	か	き	く	け	こ		
	ほ	へ	ふ	ひ	は	。	さ	し	す	せ	そ			
	の	ね	ぬ	に	な	た	ち	つ	て	と				

2. 印刷装置の新設

1. と同様に利用者のアンケートには「検索時の記録用にメモ用紙をおいてほしい」という声も聞かれ、ようやく印刷装置を設置することができました。記録したい図書データなどは端末機の画面単位で印刷することができます。

印刷方法

(1)印刷装置に用紙が用意されていることを確認。

(2)鍵盤の左上隅にある「ページ・印刷」を押す。

(3)印刷装置が動きだし、端末画面の上から順番に印字していく。

(4)端末画面の最終行の印字が終り印刷装置が動かなくなったら、印刷装置右端にある取手をまわし用紙を取り出す。

なお、印刷装置が正常に動かないとき、または、利用方法がわからないときは係員までおたずねください。

編集後記

◆秋。稲穂がみのり、大気が澄む季節。同時に草木の紅葉と落葉で物の哀れが身にしむ季節でもある。物思いにふけるには一番よい時期でしょう。

◆長柄橋の完成年をめぐって土木工学科の栗田先生にお世話いただいた。電話口で先生の声はずんだ。「全事業の完成は58年です…」

に続いて、なんと長柄橋の架橋工事責任者が本学土木工学科の卒業生であることもわかった。ちなみに40年卒業の畑中繁夫氏ということで、氏以外にも多数の卒業生が関係しておられ「橋に関してはウチの卒業生は頑張りますヨ」ということであつた。

◆秋本番。物のあわれは秋こそまされ(徒然草)